

2025年度 第6回 藤沢市立鵠洋小学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2026年 3月 17日（火）10時～12時

場 所 鵠洋小学校 会議室

出席委員	河村 満 会長／鵠沼ふれあいトライアングル 代表 亀本 淳夫 副会長／鵠洋小学校 校長 寺田 言子 鵠沼地区青少年育成協議会 徳永 理加 鵠沼南地区民生委員児童委員協議会 主任児童委員 野村 田鶴子 鵠沼東民生委員児童委員協議会 坂田 千鶴子 鵠洋小学校おはようボランティア 吉田 正彦 学識経験者（元鵠洋小学校校長） 浪川 征子 どろんこ児童クラブ 代表 齋藤 香乃 鵠洋小学校PTA 代表 山口 秀俊 鵠沼市民センター センター長 植松 梢 鵠洋小学校 教頭 後藤 洋平 鵠洋小学校学校運営協議会 コーディネーター 奥濱 佳那 鵠洋小学校学校運営協議会 コーディネーター 出席委員：13名 欠席委員：1名（駒場亜以） 事務局：亀本淳夫（鵠洋小学校校長） 傍聴人数：0名
次第	1 開会 2 議題 学校の現状と課題 令和の教育を考える 防災教育について その他（次年度の運営） 3 閉会
協議内容	2 議題 ・学校の現状と課題 亀本副会長 ◆学級運営の現状 3学期に入り、落ち着きを取り戻したクラスがある一方、担任2名が療養休暇中のため、現在、担任不在となっている学級がある 当該学級については、学年の職員、専科、非常勤講師、管理職

が教科ごとに交代し、授業を行っている

◆次年度について

児童数・学級数（38 学級）は維持

しかしながら、近年深刻化している教員不足の状況から、本校においても担任不足の懸念がある

◆6 年生「お別れ遠足」

交通費抑制もあって、バスを利用せず、電車を利用して「よみうりランド」へ行った

KFP（地域団体）の協力により安全に実施でき、高評価を得た
困りごとのフォローについてはそちらも利用していく。

後藤委員
亀本副会長

担任不足の現状に際して、学校として何か考えはあるのか
現在、全国的に深刻化している教員不足に対し、本校では教育活動を停滞させないための組織的な体制構築を検討している
例えば、担任不足の状態が常態化する場合、従来の「一学級一担任制」に固執せず、高学年を中心とした「教科担任制」および「チーム担任制」への移行することもあり得る

これは、一部の教員に過度な負担が集中することを防ぎ、学校全体の組織力で子どもたちの学びと生活を支えるための不可欠な措置である

メリットとして、複数の教員が関わることで、いじめの兆候や子どもの変化を早期に発見できたり、子どもや保護者が、状況に応じて最適な相談相手を選択できる。また、教員が個々の専門性を生かした授業を行うことで、担任の有無にかかわらず学習の質を確保できる

とは言え、これらの体制を安定的、かつ持続可能なものとするためには、現在の教員配置枠の拡大も必須となる

各教職員が事務処理の時間を削り、管理職が恒常的に授業を補う形での対応には限界がある

学校としては、教育委員会をはじめとする関係機関に対し、実効性のある人員確保と予算措置を強く働きかけていく

・令和の教育を考える

亀本副会長

現在の子どもたちの指導は、昭和時代、平成時代の指導法では通じないと感じている

具体的に言えば、「一人ひとりに合わせた指導」が必要である
しかしながら、30 人以上の学級で、全員に対して別々のオーダーメイドな対応を完璧に行おうとすれば、教師の身が持たない
こういった現状をどのように考えるか

河村委員

以前は「学級委員会」等の保護者同士の横の繋がりが、教員を

支え、中立的に事象を判断するクッションになっていたが、現在はその関係性が希薄化している

吉田委員 地域住民や保護者が「学校のサポーター」として積極的に関わる意識（当事者意識）の再構築が必要ではないか

庄司委員 学校と家庭が「先生を信頼し、盛り立てる」姿勢を共有することが、子どもの落ち着きに繋がるはずである

・防災教育について

亀本副会長 「ベストティーチャー」プロジェクト（次年度計画）

•概要

運営協議会委員が講師となり、新４年生に対して防災授業を実施する。

•実施案

10月～11月頃を予定。実体験（3.11や阪神淡路等）の話を入り口とし、大人がいない時に「自分の命をどう守るか」を考えさせる。

•手法

委員の負担を考慮し、前半の「体験談」を各委員が担当し、後半の「ワークショップ」は教育経験のある委員や教員がサポートするフレームワーク案で合意

※留意点

現時点では、新４年生の職員団が決定していない

あくまでも新４年生職員の意向に沿う形にしたい

・その他（次年度の運営）

亀本副会長 ◆学校評価

アンケート分析結果を共有

挨拶の向上は見られるが、「先生に認められている」と感じる子どもの割合が低下しており、次年度の重点課題とする

◆働き方改革

藤沢市の方針の共有

教員の働き方改革において地域に求められていることは、主に「学校が担うべき業務」と「地域が担うべき業務」の適切な分担、および教育活動への参画・協力である

教員の長時間労働を解消し、教育の質を維持・向上させるためには、学校だけで全てを抱え込むのではなく、地域全体で子どもを育む体制への転換が不可欠とされている

具体的には、次のとおり

＊登下校の見守りや交通安全指導、放課後の見守り活動

＊運動会の準備・運営における協力

*学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を通じ、地域住民が学校の課題を自分事として捉え、働き方改革に協力すること

・学校の業務削減（例：電話対応時間の制限、行事の精選）
に対して理解を示す

・放課後学習支援や環境整備

◆委員の交代

PTA および KFP の代表者交代に伴う新委員の紹介

次回開催日程 2026 年 5 月 18 日（月）10 時～

場 所 鶴洋小学校会議室